



創立 40 年を迎えた 当別町 文化協会の挑戦！

文化がある町には活気と気品が漂います。
文化協会登録の 49 団体、946 人のまちづくりを紹介します。



個人の趣味から地域の連携と文化の伝承へ。

当別町文化協会（中野政幸会長）には総勢千名近い登録があることをご存知でしたか？

趣味の愛好者が集まりそれぞれ団体を形成し、49 の団体が文化協会に登録し活動しています。

文化協会は各サークル、団体の活動を支援し、発表の場を提供するなど町の文化と生涯教育の推進に大きな役割を果たしています。

今年も町文化祭は協会が中心となって11月1日から3日までと8日の計4日間開催され、会場の西当別コミュニティセンター、ふれあい倉庫に延べ2700人が足を運び、

日頃の創作活動、または練習の成果を鑑賞しました。

文化協会の前身、当別町文化団体協議会の設立は昭和44年にさかのぼり、公民館を活動拠点に11団体の登録でスタートしました。町文化祭も当初は町が主催でしたが、昭和52年に現在の文化協会に改まり、協会主催事業となりました。平成15年には展示・舞台の発表をスムーズに行う専門理事制度を取り入れ、文化祭参加団体に積極的な登録を呼びかけるなどして、大幅に会員数を増やしてきました。発表の会場もコミュニティセンター、町教育施設のほか、ふれあい倉庫など多額の発表が可能となり、内容も充実してきました。



今年の文化祭発表部門



フラ・ダンス「アロハフラーズ」で指導を行っている高橋^{たえこ}隼子さんは、近年人気のフラダンスについて、「体や手の動きは手話と同じ、言葉のように表現をしています。無理なく健康になれるのが最大の魅力です。」とお話してくれました。

ピアノ発表に出演した木村^{まき}早希さん（小2）は「文化祭でお姉さん達が弾く素敵な曲を聞いて、それを目標に来年に弾いてみたい。」と目を輝かせていました。

多くの町民が文化芸術に触れ合うことができるよう、文化協会では文化祭のほか、石狩管内の文化団体との交流を通して町内で芸能発表会を開催したり、音楽団体が集まって毎年実施している「ふくろう音楽祭」の後援を行っています。また、小学校での地域子ども教室（わくわくキッズ）においては日本棋院当別支部の協力による「囲碁教室」、末田手芸教室による「粘土お菓子作り」、中野会長も「水鉄砲づくり」など、子どもたちに感性豊かな指導を行っています。さらに、学校支援地域本部事業への協力として、音楽の授業において琴の指導など教育支援にも積極的に協力しています。

岩出山（当時）のコーラスグループの来町にあわせて文化祭に出演の音楽団体が呼びかけて平成14年から始まった「ふくろう音楽祭」は、町内の各学校も巻き込んで200人もが出演する一大音楽イベントに成長しました。「今年は残念ながらインフルエンザの蔓延のため中止となりましたが、途切れることはない。」と音楽祭事務局長の武田龍太郎さんは言います。このように個人から始まった趣味や特技が地域を巻き込んで文化のレベルアップを図り、感性豊かな活動に繋がっています。

文化祭以外での活動も

日本棋院当別支部による
囲碁教室（当別小学校
わくわくキッズ）



ふくろう音楽祭 2008



文芸交流大会 2007



当別町文化協会の挑戦！



協会創立 40 年事業もみんなです。

町文化協会創立 40 年の記念事業が、8 月 23 日に白樺コミュニティセンターで開催されました。

記念事業では箏太美萌の会の箏の演奏、西川流舞踊当別鯉延会が演じられたほか、江別市、千歳市、恵庭市の各文化協会に所属する団体の友情出演もありました。特に江別市の無形民俗文化財「野幌太々神楽伝承会」の舞は、明治 31 年から続く貴重な伝統神楽で、厳かな中にもユーモラスのある奉納舞に聴衆も見入っていました。

当日は記念事業に併せて式典、祝賀会も開催されました。また、今年の文化祭に合わせて 40 周年を祝う記念誌「築」を発行するとともに、姉妹都市である宮城県大崎市岩出山の文化協会からは、岩出山の四季折々の美しさと、歴史ある風景を収めた写真作品 13 点が特別展として 11 月 1 日から 3 日まで文化祭会場を飾りました。

今回、文化協会登録の 49 団体の一部の紹介に留まりましたが、文化祭を自らの発表や生きがいの場として、日夜努力されている方々と、その方々の行動が広がりを持ち、町全体の活気に繋がっていることを取材を通じて感じました。 【お問い合わせ 社会教育課 ☎ 22 - 3834】



題字の「築」は 40 年かけて築き上げてきた文化、と会員の相互の絆を築いていくとの願いが込められています。



インタビュー

当別町文化協会
中野政幸会長



これまで 24 年間、理事長、会長と言う立場で文化協会に携わってきました。この間、協会のあり方についても論議を重ね、紆余曲折を経て「みんなの文化祭を参加者みんなで盛り上げること」を目標に登録会員を増やし、文化祭準備、運営も参加者自らが分担するようになりました。

当別地区と太美地区のそれぞれに開催された方法も、毎年交互に開催するなど改善を行って、その成果が最近やっと現れてきたと感じます。

これからも各団体の活動のお手伝いをおし、この中からみんなで作り上げる文化祭と文化のまちづくりを目指して行きます。